

# 高等部 2 年国数 4 グループ 学習指導案

大阪府立和泉支援学校

T 1 堤 文 希

T 2 長谷川奈緒

1. 日時 令和 4 年 11 月 11 日 (金) 第 3 時限 (11:00~11:50)
2. 場所 第 2 学年 4 組教室
3. 学部・学年・グループ 高等部 第 2 学年 4 グループ 8 名
4. 単元 (題材) 名 「国数を探せ(料理のレシピ編)」
5. 単元 (題材) 目標

- ・料理のレシピを通して、名詞や動詞の使い方や、体積や重さの単位について知り、それらを測定する技能を身に付けたり、レシピから得る情報の上に自分の考えがあることに気付く。(知・技)
- ・料理レシピを正しく読んだり、量や重さの単位も使いながら書いたり、相手に伝わるように自分の考えを話したり、正しく相手の言っていることを理解したりする。(思・判・表)
- ・数量や言語活動に進んで関わり、調理など生活に活用しようとする態度を身に付ける (学)

<和泉支援学校キャリアプランニングマトリックス>

- ・人と [自他の理解] 3 段階② 自分の気持ちを具体的に説明する
- ・社会へ [情報への関心] 3 段階① 社会の様々な情報に触れ、興味・関心を持つ
- ・自分で [振り返り・自己調整] 3 段階① 活動場面での振り返りとそれを次に生かそうと努力する

## 6. 生徒観

本グループの生徒は多くが就労をめざすコースに在籍しており、卒業後の仕事やコミュニケーションの必要性、日常生活の営為の自己裁量の幅の広さなどを考慮すると、ある程度の国語力や数学的思考力が必要となってくる。しかし本人たちは、なぜ国語や数学を習うのかの意義を見出せず、授業を受けてきた。

本グループの生徒の国語的な実態は、日常生活においては、おおよそ、具体的な言葉の指示で活動できたり、友達同士と言葉による簡単なコミュニケーションが可能であったりする。また、3分の1ほどの生徒は漢字仮名交じりの文章を書くことができ、その他の生徒でも、漢字が苦手であっても、文字を書くことに対しては抵抗なくできる。また、パソコンなどでアニメやゲームの検索ができる生徒がいたり、SNS を使い三語から四語程度の短文で、友だち同士でやり取りをする生徒もいたりする。簡単な言葉で感情などを言語化することができる。また、アニメなどから日常では使わない言葉を知っている生徒もいる。しかしながら、何か物事を具体的に相手にわかるように説明することに課題があったり、一つの単語に引っ掛かり文章や会話の流れ全体を捉える事が苦手であったり、文章を理解しながら読むことに課題が

ある。また、日常生活では相手を理解する前に感情の対立にしばしば発展することもあり、様々な人の意見があることを理解すること、自分の意見と人の意見はどこが同じでどこが違うのか理解するということが、違う立場であっても喧嘩する必要はないということを理解することに課題がある生徒も複数いる。

数学的な実態は、計算式では一桁から二桁の加減法が指を使えば可能な生徒から、ひっ算を使えば二桁の掛け算が可能な生徒、二桁の加減法の文章問題を立式して答えを出せる生徒もいる。しかし、量や長さの単位については「なんとなくその言葉聞いたことがある。」という程度で、その単位が示す意味についての理解に至っていない生徒もいる。

## 7. 教材観

本単元では、料理のレシピを取り上げる。前半のレシピを読み解く学習活動では、語句の文法的な学び、説明文を正しく読みとる読解力、説明文からイラストを選択した根拠(自分の考えの理由)の言語化、量の単位などが学べる。後半のレシピづくりでは、料理の作り方は「何を」「どうする」のか具体的な説明が必要であり、それを順序立てて並べる力が必要である。分量を表すのは学んだ単位の取捨選択が必要である。前半に学んだ力を使い、自分の興味のある料理の作り方を自分の言葉で説明したり、分量を表したりしていく活動が可能な単元である。前半の題材には「坂本廣子のひとりでクッキング⑦おべんとうをつくろう」という小学生低学年向けの料理本を使用する。出てくるイラスト(使用される食材や調理器具)についても確認の言葉がついており、レシピの手順一つにつき対応するイラストが付き、また、説明文も漢字に振り仮名を振っていたり、主語と述語の結びつきが単純であったりする。言葉とイメージの結びつきに配慮があり、文章が事象を説明することを学習するには適材である。

## 8. 指導観

日常生活では、国語や数学の力が必要であり、国語や数学の学ぶ意義を考えていく事を意識づける説明の仕方を行う。前半のレシピを読み解く学習活動では、単に、説明文からイラストを選択するという活動のみにとどまらず、何故そのイラストをその説明文に対して選んだのかの理由を説明するプレゼン形式、ほかの人が違うイラストを選んでいる場合、その人はどういう考え方で選んでいるのか、もし違うと思うのならそれは何故そう思うのかをレシピの説明文を使いながら相手にわかりやすく伝えるというディベート形式で展開する。ただし、本グループの生徒はこれまでディベートを経験したことがないので、教員が適宜補足の言葉を入れて言語化を促す必要がある。その中で言語による思考の重要性に気づけたり、相手に伝えるためには「何が(何を)」(名詞)「どうした(どうする)」(動詞)を明確に伝える必要があることを気付けたりするように促す。語句の品詞を学習する際には、辞書やタブレットなどを使用し、自分たちで調べ学習を行う活動も設定する。また、重さや量の学習の際には具体的な食材や調理器具等を使い、体験と知識が結び付いたり、実生活とのつながりを意識できたりするような活動を取り入れる。レシピづくりでは学習した品詞に気を付けながら文章を作ったり、説明文の順序によってでき上がるものが違う結果になってくるなど、文の組み立てに注意したり、学習した分量の単位を使えたりするように指導する。また、最終的に自分のレシピをプレゼンできるように、学習活動にはタブレットを適宜活用してもよいことを伝え、自分の表現の選択肢を広げるような指導を行う。

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 料理のレシピで、名詞や動詞を見つけたり、重さや容量を測定したりしている。</p> <p>② 料理のレシピを通して名詞や動詞とは何かについて知ったり、重さや容量の単位について知ったりしている。</p> <p>③ 料理のレシピを正しく読み書きしたり、容量や重さを目的に応じた単位で書いたりしている。</p>	<p>① 料理のレシピを読み書きしたり、声の大きさ等に気を付けて話したり相手の話を聞いたりしている。また、相手に分量が正しく伝わるように容量や重さの単位を書いたりしている。</p> <p>② 料理のレシピを相手に伝わるように気を付けて話したり聞く態度に注意して話を聞いたりしている。また、相手に分量が正しく伝わるように容量や重さを目的に応じた単位で書いたりしている。</p>	<p>① 調理の場面で重さや量の単位を使うことに気づき、学習した事を違う調理場面で生かそうとしたり、日常生活における言語活動に気づき、話すときに言葉で表すことを大切にしようとしたりする。</p> <p>② 重さの測定の経験を調理だけでなく他の日常生活にも工夫して生かそうとしたり、言語化する大切さに気づき、学んだ力を使い、考えを伝え合うために工夫しようとしたりしている。</p>

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全 15 時間、本時は第 13 時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	1	○国数を学ぶ意義 ・日常生活の中の国数	・日常生活で国語的、数学的な活動が様々な場面であることを探す	・生徒間で生活経験に差異が有り、それを埋めるため丁寧に説明し、自分なりの経験を思い起こすことにつなげるように促す	C  （日常生活の場面で国語力などを使う場面などを具体的に考えて発言している）
2	2 ～ 7	○料理レシピを読み解く ・説明文の読解 ・考えを言葉にする  ・人の意見を正しく理解する	・料理の説明文を読み、その説明に該当するイラストを探す ・そのイラストをその説明文に充てた理由を物の名前や動きの言葉に気をつけて書く ・プレゼンテーション：自分の考えの発表 ・ディベート：他の人との意見の違いに気づき	・イラストには何が書かれているのか説明できるように、物の名前と動作の言葉に注目するように促す ・話し方や、聞き方に注意することも国語の勉強であることを意識づける ・説明に適宜 ICT を活用するように促す	A、B、C  （自分の考えた理由を言葉で表そうとして、イラストの描写を言語化している。）  （声の大きさや速さ、語句に注意して発表することが出来る）（相手に伝わるように話したり、相手が何を言っているの

			考えを述べる	・言葉が足りない時には、何が足りないかを気付くように促す	か理解した上で自分の考えを名詞や動詞に気を付けながら述べようとしたりしている。)
3	8 ～ 9	○名詞と動詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名詞や動詞についてタブレットや辞書や参考書で調べる</li> <li>・説明文の中の名詞や動詞を探す</li> <li>・自分たちで名詞や動詞の概念を説明しあう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおよその概念の調べ学習の後に、具体的な文章を通して概念の理解を促す。提示の際には、適宜 ICT 機器を活用し、注目すべき場所の焦点化を図る</li> <li>・概念の定着を図るため、言葉を比べながら自分達で吟味できるように促す</li> </ul>	A、B、C (名詞や動詞の説明をワークシートにまとめている) (料理レシピから名詞や動詞を正しく抜き出している) (名詞や動詞と思われる単語を比べて、名詞とはどんなものか、動詞とはどんなものか友達に説明したり考えを述べようとしたりしている)
4	10 ～ 12	○重さと容量 <ul style="list-style-type: none"> <li>・重さの単位</li> <li>・容量の単位</li> <li>・計量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「『少々』『適量』がどれだけかわからず困る」という、インスタグラムを見る</li> <li>・ワークシートの白抜きされている単位について考える</li> <li>・g, kg と ml (cc), l について知る</li> <li>・計量器で一円玉を計る</li> <li>・水 1g と水 1ml ～計量スプーンについて知る</li> <li>・1000g=1kg について知る</li> <li>・お菓子を<math>\frac{1}{2}</math>で等分する</li> <li>・表記の単位を選択する際の判断について身近な数値を使って利便性を検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名詞や動詞のみならず、具体的な数値がある方が、物事がわかりやすい場面もあることに気付けるように促す</li> <li>・具体的な物の重さと単位のイメージを結び付ける体験を設定する</li> <li>・出てきた単位の関係性について、水等を用いて体験できる活動を設定する</li> <li>・重さを量ると一言で言っても、体重測定と個人的な料理時の計測の違いが分かるよう具体物を用意する</li> </ul>	A、B、C (計測器で、1円玉などを計り、1gであるということを知っている) (料理では、主にgを使い、体重的な重さが重いものについてはkgを使った方が良いことなどを理解している) (水1gは水1mlであることを知る) (「軽い」や「重い」に見当をつけ、単位の使用を変えたほうが良いことを知るとともにその考えを応用して、「少ない」や「多い」に見当をつけmlやlを使い分けたほうが良い

					ことを推し量る)
7	13 ～ 16	○レシピ作り ・説明文を書く  ・相手に伝わる説明	・自分の好きな料理を考える ・「何(が、を)」「(名詞)」「どうする」(動詞)、重さや容量の単位、説明の順序を意識しながらレシピをつくる ・作ったレシピを発表する	・必要に応じて料理の動画などを、レシピ説明の文章を考える際の参考にしよう促し、動画を見ながら、動作や物の名前の確認を行う ・自分のレシピを伝わりやすく文章にするように名詞や動詞、物の単位を意識が向くように言葉がけを行う。 ・聞く態度や話す態度を予め伝えて意識して聴けるように促す	A、B、C  (自分の好きな料理レシピを作る際に、学習した知識を生かそうとしたり、工夫しようとしていたりしている)(レシピを発表する際、声量や語句の使い方を工夫して発表しようとする)

## II. 本時(13/15)の展開

### (1) 本時の目標

- ・自分で考えたり、調理の動画を見たりしながら物の名前(名詞)や調理の動作(動詞)を言葉にしたり、食材が計測されていることに気付いたりすることができる(知・技)
- ・食材や調理器具の名前、料理の動作といった語句に注意したり、分量に注意したりしながら正しく相手に伝わるようにレシピを書くことができる(思・判・表)
- ・料理をする際にも言語活動や数学的な力が必要であることに気づき、粘り強く言葉や単位を意識して伝わりやすくしようとする(学)

### (2) 本時の評価規準

- ・動画を見て、食材や調理器具を見つけ言葉にすることができたり、分量に注目できたりしている(知・技)
- ・動画には「何が(物の名前)」「どうする(動き)」のどの情報があるのかを理解し、文章にできることを理解している(知・技)
- ・教室の後ろの友達に伝わるような声量で、動画で何をしているかについての説明を話そうとしている(思・判・表)(学)
- ・動画を説明する際には、「何(物の名前)が(を)」「どうする(動き)」「分量」を明確にしないと相手に伝わらないことに気づき、それを意識しながら、自分の言葉を相手に伝えるために話し方や書き方を工夫しようとしている(思・判・表)(学)

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・ワークシート・タブレット・電子黒板・ミラーリング装置・HDMI ケーブル・スマートペン
- ・言葉ヒントカード（食材・調理器具・調理方法のイラスト）

(4) 児童生徒の実態と本時の目標

※省略※

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準（評価方法）
7分 導 入	・本日の流れの確認 ・挨拶 ・出席調べ ・前回までの振り返りおよび本日の学習の目標の確認	・自発的に行動するよう、予め係を決めておく  ・考えの言語化を目標とすることを意識づける。	・現在何を目標としているのかの発問に、答えている
35分 展 開	○名詞と動詞分け ・ヒントカードの名詞や動詞のグループ分けを全員で行う  *タブレットの配布 ・グーグルにログインし、レシピのファイルを開く  ○料理レシピづくり ・各グループに分かれ、食材や調理器具(名詞)を確認したり、調理方法(動詞)を確認したりする ・A、B グループー調理の動画を見てヒントカードを選びそれを基に、食材と調理方法をセットにした言葉を書き込んでいく。 ・C グループー自分たちの好き	・名詞は物の名前、動詞は動きを表す言葉出ることを確認する。  ・名詞と動詞の組み合わせが相手に伝わりやすいことを確認する  ・アカウントカードは、人に見せてはいけないことを確認する。  ・前時までに学習した名詞や動詞の一覧を電子黒板に提示し、適宜参考にするように促す ・生徒の言葉を適宜ヒントカードや言葉かけで引き出しながら、食材や調理器具の名前を使ったり、動作の言葉を使ったりするように促す	A①② ・ヒントカードの食材や調理器具は名詞グループに、調理方法は動詞グループに分けることができる。  A①③、B①②③、C①② ・イラストの描写を言語化している。 ・自分の考えを名詞や動詞、分量を意識して言葉で表そうとしている ・声の大きさや速さ、語句に注意して相手に意見を伝えようと

	<p>な料理を考えて、必要な食材、調理方法を考えて書き出し、それらがセットになった箇条書きにする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食材と調理方法がセットになった箇条書きが列挙でき、相手に伝わりやすいか確認できたグループは調理手順の順番に気を付けながらレシピを作っていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食材と調理方法がセットになった箇条書きを、コピー&amp;ペーストで調理手順に並べるように促す</li> </ul>	<p>している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手が何を言っているのか理解した上で自分の考えを名詞や動詞に気を付けながら述べたり、書き方を工夫しようとしたりしている</li> <li>・読む人が料理をしやすいように、分量を表記しようとしている</li> </ul>
8分 ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片付け</li> <li>・物の名前や動きをセットにするとわかりやすい文章になることの確認</li> </ul> <p>・挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えの言語化の必要性を意識づける。その際に、具体的な物の名前と動作の組み合わせが相手に伝わりやすいことを確認する</li> <li>・物の名前や動作の組み合わせは今後の単元、即ち小説を書く際にも必要となってくることを伝える</li> </ul>	<p>A①③、C①②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何を目標にしていたかの質問に対し、自分の目標達成度を答えている。</li> <li>・名詞や動詞、分量をセットで使うと相手に伝わりやすい文章になることに気づく発言をしている。</li> </ul>

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）

